

新年の ごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。
市民の皆さまには、お健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。
昨年は、『いざなぎ景気』を超える景気の回復がマスコミなどでいわれておりますが、サラリーマンや中小企業などでは、その実感がないという声が大勢を占めております。
一方、自治体を取り巻く行財政環境は、年々厳しさを増し、また、少子・高齢化が進展し、複雑・多様化する市民の要望に、いかに応えていくかが最大の課題となっております。
このため、議会としても、その役割・機能を生かして市民の声をいかに市政に反映させるかという観点から、これまでの議会のあり方について総体的な検討を行いました。
その結果、市民との交流を深めるとともに、市民意見を的確にとらえた政策形成への取り組みが何よりも求められているという考えのもと、議会の定例会の開催回数を年4回から年3回にしたほか、議員定数の削減や経費の節減などに努めました。
今後はさらに、市民との協働を主軸とする協働型議会の構築を目指し、『市民が主人公』の分権型社会の創造につながるまちづくりを進めてまいります。
最後に、この一年が市民の皆さまにとりまして、より良い年となりますよう心からお祈り申し上げまして年頭のごあいさつといたします。



新年あけましておめでとうございます。
市民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。
旧年中は、市政の推進にご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
昨年は、日本の経済好調の持続期間が戦後最長だった『いざなぎ景気』を超えたと発表されましたが、一般消費者には景気回復の実感乏しく地域格差の拡大が続き、地方自治体は地方分権の進展や三位一体の改革により、極めて厳しい財政状況となっております。
このような状況の中、当市では多くの市民の参画のもと、今後10年間に行うべきまちづくりの施策について、論議しまとめた『第4次総合計画第2期基本計画』がスタートするなど、市民と行政による協働のまちづくりの推進に努めてきました。
今後は、多様化する市民ニーズや少子・高齢社会に対応できる基礎自治体としての組織体制の整備に努めるため、近隣市町との連携や広域合併も視野に入れた検討が必要と考えています。
この一年が、登別市の将来にとって、確かな一歩として刻まれる年となるよう、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、市民の皆さまにとりまして、明るく幸多い年となりますようご祈念申し上げます。